

サツマイモのナカジロシタバの発生が平年より多くなっています。 今後の急増に注意して下さい！

[現在の状況]

- ① 8 月下旬現在、サツマイモ圃場におけるチョウ目幼虫の被害葉率及び発生地点率は、平年より高い（表 1）。チョウ目幼虫の主要種は、ナカジロシタバであると考えられる。（ナカジロシタバの発生生態等については、平成 22 年 7 月 27 日発表の病虫害発生予報 8 月号を参照）
- ② 気象予報（8 月 27 日発表）によると、向こう 1 か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

表 1 サツマイモ圃場におけるチョウ目幼虫の発生状況（8 月下旬調査）

| 地域 (調査地点数) | 被害葉率 (%) | | | 発生地点率 (%) | | |
|---------------|----------|------------------|------------------|-----------|------------------|------------------|
| | 本年 | 平年 ¹⁾ | 順位 ²⁾ | 本年 | 平年 ¹⁾ | 順位 ²⁾ |
| 県央 (5) | 23.8 | 12.0 | 2 | 100 | 63 | 1-3 |
| 鹿行 (5) | 30.4 | 13.6 | 1 | 100 | 72 | 1-3 |
| 全県 (10) | 27.1 | 13.6 | 2 | 100 | 67 | 1-2 |

1) 平年：平成12～21年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位：過去11年間に於ける本年値の順位を示す（1-3は1位から3位まで同じ数値であることを表す）。

[防除対策]

- ① 9 月上旬～中旬に圃場をよく観察し、第三世代幼虫の若齢～中齢の時期（つる先や上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の 25% 程度を食害された葉が目立つ時期）に、薬剤散布を行う。
- ② 薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、表 2 に示す薬剤を適期に散布することで、十分な効果が期待できる。なお、IGR 剤（ノーモルト乳剤、マッチ乳剤）は、他系統薬剤に比べ殺虫効果の発現に時間がかかるため、早めに散布する。
- ③ 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

表 2 サツマイモのナカジロシタバに登録のある主な薬剤（平成 22 年 8 月 25 日現在）

| 系統名 | 薬剤名 | 希釈倍数(倍) | 収穫前日数－ 剤の使用回数 | 有効成分－ 有効成分の総使用回数 |
|------------|------------|-------------|------------------|----------------------------|
| 有機リン系剤 | ディプレックス乳剤 | 700～1,000 | 14－4 | DEP－4 |
| カーバメート系剤 | オリオン水和剤40 | 1,000 | 前日－5 | アラニカルブ－5 |
| | ラービフロアブル | 750～1,000 | 3－3 | チオジカルブ－3 |
| 合成ピレスロイド系剤 | トレボン乳剤 | 1,000 | 7－3 | エトフェンブロックス－3 |
| IGR剤 | ノーモルト乳剤 | 1,000 | 7－2 | テフルベンズロン－2 |
| | マッチ乳剤 | 2,000～3,000 | 14－2 | ルフェヌロン－2 |
| その他 | トルネードフロアブル | 2,000 | 7－2 | インドキサカルブ及び インドキサカルブMP－2 |

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また、周辺作物等へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意して散布して下さい。